

2 三鷹市教育委員会の実施した「学習定着度調査」の分析 5年

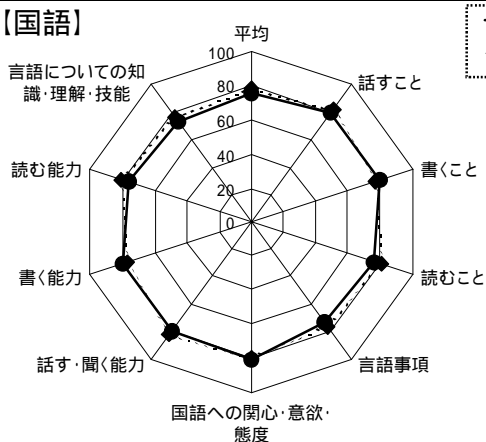
(1)国語

	データから見た特徴	分析内容
全体正答率	期待正答率71.0%に対し、校内平均正答率は、75.3%と4.3%上回っている。しかし、市の平均的な正答率と比較すると、2.8%下回っている。全体的に分散化の傾向にある。	市の正答率と比較すると下回るが、期待正答率は上がっており、誤答や無答も少なくなっている。 7割の児童が、「満足もしくは概ね満足」という結果だが、成績下位の児童への指導の改善が必要である。
内容別正答率	作文を書くことについては、市の平均を上回っており、期待正答率と比べても16.3ポイント高い。一方、物語や説明文の内容を読み取る、漢字を書くことの正答率は、市の平均を4ポイント以上下回っている。	内容を読みとることについては、誤答が多く、文章の内容をまとめながら読む力が不足していることがわかる。漢字の読み、書きについては、無答の割合が高い。反復的な学習が必要であり、日常的な練習が不足していることが分かる。
観点別正答率	全ての観点において、期待正答率を上回っている。関心・意欲・態度と書く能力については市の平均も上回っている。しかし、読む能力と言語についての知識・理解・技能では市の平均点を3ポイント以上下回っている。	読む能力と言語事項についての正答率が低いことから、語彙が少ないことや文章の表現に親しんでいないことが考えられる。漢字の反復学習や音読、読書などを習慣化し、国語力をつけていく必要がある。
期待正答率に達しない児童の割合	期待正答率に達しない児童は約4割にのぼるが、6割近い児童が、市の平均正答率は上回っている。学習到達度の二極化が見られ個人差が激しい。	正答率が50%に満たない児童が約1割いる。無答の割合が高く、国語の力がついていないことと関心・意欲・態度も低いことがわかる。

(2)算数

	データから見た特徴	分析内容
全体正答率	期待正答率と比べると、6ポイントほど上回っている。市平均からは3ポイントほど下回っている。	全体的に期待正答率は上回っているが、内容ごとに差があり、個人ごとに差がある。無回答の割合も0ではなく、個人レベルでの対応が重要である。
内容別正答率	期待正答率と比べると、分数を除く全ての内容が平均して5～6ポイントほど上回っている。市平均と比べると、「わり算」、「小数」、「折れ線グラフと表」以外の内容が平均して6ポイントほど下回っている。	分数の正答率の低さが突出している。「分子が1の分数が何個分で1になるか」の記述式設問では「無回答」が2.4ポイント、また「帯分数、仮分数、整数等を含む数を大小順に並べる」設問では期待正答率を17ポイントほど下回る。数に対する量的感覚を備える体験的な学習が必要である。
観点別正答率	期待正答率と比べると、5ポイントほど上回っている。市平均と比べると、4ポイントほど下回っている。	期待正答率を全ての項目で上回っているが、更に指導の充実を図る必要がある。しかし市平均と比べ、関心面と思考面の低さが目立つ。学習の中で、その2点を伸ばす指導方法を確立する必要がある。
期待正答率に達しない児童の割合	期待正答率に達しない児童は35%に及ぶ。正答率度数分布では2こぶの分布になっており、学習到達度の二極化が見られる。	成績下位に位置する児童への指導改善が重要である。

【国語】



【算数】

